



発行 / 2025.9.30

発行者 / 大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

博物館ホームページ URL

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>

まちかね Vol.10 ミュージアム

マチカネワニ化石が国の天然記念物へ！

大阪大学総合学術博物館に収蔵・展示されているマチカネワニ化石は、本年6月20日、国の文化審議会において天然記念物として指定するよう答申がなされました。正式に指定されると、大阪府内では69年ぶり、6件目となります。

マチカネワニは、学名を *Toyotamaphimeia machikanensis* (トヨタマヒメイア・マチカネンシス) といい、1964年(昭和39年)5月、豊中キャンパスの理学部建設現場でその化石が発見されました。約45万年前(新生代・第四紀更新世中期)の地層である大阪層群上部より出土したもので、日本で発見されたワニ類の全身骨格化石の第一号であるとともに、国内で確認されている同時代の四足脊椎動物化石のなかでも最も完全な全身骨格といえます。頭骨の長さは優に1メートルを超え、全長は6.9メートルから7.7メートル、体重1.3トンと推定され、ワニ類のなかでも大型種に属しています。

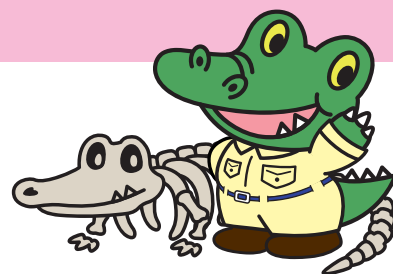
この化石は127点の実物標本から構成されており、地質学・古生物学・生化学など多角的な視点からの調査・研究が実施されてきました。ワニ類の進化を解明するうえで重要な標本であり、学術的に極めて高い価値を持っています。すでに2014年(平成26年)に国の登録記念物とし

て登録され、2016年(平成28年)には日本地質学会により大阪府の「県の石」に認定されていました。

またご存知のように、本学のキャラクター「ワニ博士」や豊中市のキャラクター「マチカネくん」のモデルにもなるなど、学内外で親しまれています。今回の答申に合わせ、当館では「ワニ博士」の博物館時代バージョンも作成しました。

マチカネワニ化石は、総合学術博物館(待兼山修学館)で常設展示されており、いつでも実物をご覧くださいことができます。現在、この化石の価値を知っていただくさまざまな催しを企画中です。そちらにもぜひご参加いただければ幸いです。

当館では、マチカネワニ化石の保存・公開と研究の深化に努め、未来へ伝えていきたいと考えています。大阪大学のシンボルとして、さらに親しんでいただけるよう取り組みを続けてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



阪大「ワニ博士」博物館の頃



展覧会のお知らせ

特別展

薬学のチカラで未来を創る

～大阪大学薬学部のあゆみと挑戦～

古くから薬のまちとして知られている大阪の地で、1949年、大阪帝国大学は新制の大阪大学へ切り替わり、それと同時に医学部に薬学科が設立されました。さらに1955年に旧帝国大学初の薬学部が設立されました。以来、大阪大学薬学部は、薬の研究と教育の拠点として、70年以上にわたり医療・産業・行政など幅広い分野で活躍する人材を数多く育ててきました。

現在、大学院薬学研究科・薬学部では、化学領域、生命領域、医療・衛生領域における特色ある基礎研究に加

えて、社会実装を念頭においた応用研究、レギュラトリー研究を精力的に繰り広げています。また、



新しい薬を生み出すための研究—いわゆる「アカデミア創薬」にも力を入れています。ここから、将来の新薬が生まれる可能性も広がっています。

この展覧会では、大阪大学薬学部のはじまりから現在までの「あゆみ」と、未来にむけた現在の「挑戦」を、貴重な資料や実際の研究成果を通してご紹介します。「くすりを学んで、こんなに面白い」「薬学部って想像より広い世界だった」をわかりやすくお見せします。薬学の“チカラ”が未来をどう変えていくのか、その可能性をぜひ会場で体感してください。

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
3階 多目的室

会期：令和7年10月11日（土）～
令和8年1月16日（金）

※日曜・祝日は休館、年末年始は閉館。ただし、
11月2日（日）、3日（月・祝）は開館。

・開館時間：10：30～17：00（16：30最終入館）

・入館料：無料

・主催：大阪大学ミュージアム・リンクス（大阪大学総合学術博物館、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ）

・共催：大阪大学大学院薬学研究科・薬学部

・協力：くすりの道修町資料館

展覧会報告

特別展

生誕100周年記念

松本奉山—水墨画で世界を描く—

The World in Ink: MATSUMOTO HOZAN at100.

世界で活躍した女性の水墨画家・松本奉山（1925～2010、本名：松本由美子）の生誕100周年を記念して、その歩みをたどる展覧会を開催しました。奉山は1925年に愛媛県今治市で生まれ、1938年に神戸市灘区へ移り住みました。17歳のときに松本尚山（1886～1970）の内弟子となり、厳しい指導のもと修行を積みまします。1963年に初めてアメリカを訪れたことをきっかけに、表現の幅を大きく広げ、「エンパイア・ステート・ビルディング」をはじめとする、これまでにない新しい水墨画を作り上げました。

本展は、当館のコレクションに加え、今治城や摩耶山天上寺、個人の方々からも貴重な作品をお借りし、初期から晩年までの軌跡を一覧する内容としました。奉山の活動については、博物館叢書『世界を描く水墨画家 松本奉山 静寂と躍動の筆勢』（大阪大学出版会）に詳しくまとめられています。同じ時期に神戸市立小磯記念美術館では「戦後神戸の女性画家二人展 松本奉山・中島節子 日本画・洋画抽象の試み」（4月11日～6月22日）が開催されたほか、故郷の今治市では今治城（7月10日

～8月31日）と河野美術館（8月13日～8月31日）でも100周年を記念した展覧会が開かれました。また、「六甲ミーツ・アート2025」（8月23日～11月30日）では、現代アーティスト岡田裕子さんのインスタレーション作品に、奉山のことが取り上げられています。本展を通じて奉山の魅力が再発見され、再評価につながったことは何よりの喜びです。（波瀬山祥子）

会場：大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館 3階 多目的室

会期：令和7年4月26日（土）～6月28日（土）

主催：大阪大学総合学術博物館

協力：今治城、大本山摩耶山天上寺、松本奉山水墨画会、

大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学文学部

後援：神戸新聞社



活動報告

話せなくても大丈夫！親子のための 「みる・さわる・かんがえる」ミュージアム

家庭以外の場面で話すことに困難を感じる、場面緘黙^{ばめんかんもく}という不安障害があります。場面緘黙をもつ子どもたちも楽しめるワークショップの開発をめざした研究（「場面緘黙の子どもを対象にした体験型イベントのパッケージ構築」）の一環として、子どもとご家族と一緒に博物館を楽しむイベントを開催しました。参加者は、シールで埴輪の絵を彩ったり、ワニの骨のスケッチをしたりと、集中して取り組んでいました。（高田佳奈、辻田那月、花井智也）

日時：令和7年8月9日（土） 14:00～16:00

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
3階 セミナー室

参加対象：小学1～6年生の話すことに不安や困難を感じる児童とご家族

主催：大阪大学COデザインセンター

共催：大阪大学総合学術博物館、大阪大学超域イノベーション博士後期プログラム、場面緘黙親の会



2025 体験！こどもミュージアム@大阪大学

さまざまな科学の分野に対する興味や関心を持ってもらうことを目的に、小学校3年生から6年生までを対象に開催しました。コース①②「くるくる回る！不思議なモーターを作ろう」「レーウエンフックの顕微鏡を作って、ミクロの世界をのぞこう！」では、細かい作業に苦戦しながらも、手製のモーターや顕微鏡を作成する喜びを感じていました。コース③④「めざせ！こども考古学者」では、埴輪をスケッチしたり土器片の拓本を取ったりして、考古学を身近に感じたようでした。（船越幹央）

くるくる回る！不思議なモーターを作ろう／レーウエンフックの顕微鏡を作って、ミクロの世界をのぞこう！

コース①② 7月23日（水）

11:00～12:30、14:00～15:30

【講師】箕面自由学園教育顧問 十河秀敏

めざせ！こども考古学者

コース③④ 7月24日（木）

11:00～12:30、14:00～15:30

【講師】大阪大学大学院人文学研究科／埋蔵文化財調査
室助教 木村理



美術部夏部展

当館では、毎年夏季休暇中に大阪大学美術部の部員による作品展「夏部展」を開催しています。今年度は、「Text テキスト・テキスト」というテーマを設定して、日頃の成果を展示しました。同部による展覧会の趣旨は、次の通りです。

Text という単語は、ラテン語 texere「織る、編む」を語源とし、織られた布地の様に、言葉で編まれた文章や文献のまとまりを意味し、転じて教科書や原典、コンピュータの文字データを指す語として用いられている。"text" を含む派生語は様々な意味を持ち、絵画、美術作品もまた Text の一部となる。こうした "Text" の多義性ととともに、"Text" と "Context" の関係の流動性を意識し、Text とは何かという問いを議論する中で作品を制作し、間テクスト性の可能性や Text の読解の可能性を念頭に置きながら、個々の作品、また展覧会自体を一つの Text として捉え、展覧会を構成することを目指す。

当館では、今後も学生たちの活動とコラボする取り組みを継続していきたいと考えています。（船越幹央）



会期：令和7年8月23日（土）～8月30日（土）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階
多目的室

第 8 回 兼任教員 コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をしていた
だいています。このコーナーでは兼任教員の方の
活動をご紹介します。

門脇むつみ（かどわきむつみ）

大阪大学大学院人文学研究科 芸術学専攻 教授

私は日本の中近世絵画史を専門とし、文学部・大学院
人文学研究科で美術史学の授業を担当している。講義、
一次資料や研究論文を講読する演習、また毎週金曜日
には主に近畿圏の美術館博物館や社寺を午前一箇所、午後
一箇所を訪ねる見学を行う。これらの授業で実現し難い
のが、学生たちが実際に美術作品を扱う機会を設けるこ
とである。授業で手元の作品を見せることはあるが、年
に数回であるし、すべての学生が作品を手にとれるわけ
ではない。また、学外機関での調査に学生が同行するこ
ともあるが、これも人数に限られる。そうしたなか、博
物館のご協力のもと、学生たちが作品と親しく接するこ
とができる貴重な機会がある。

一つは展覧会の補助である。私が関わった 2023 年秋
の「豊中市所蔵 京・大坂 日本絵画の精華～花鳥画の
名品から俳画の珍品まで～」は展覧会準備のための収蔵
庫での作品調査（撮影、調書作成）、そして図録の解説
執筆、展示の補助、観覧者向けの作品解説などにあわせ
て 20 名弱の学生が関わった。展覧会に関わる実務をあ
る程度経験できる、誠に貴重な機会となった。2024 年
秋「懷徳堂創立 300 周年記念展覧会 懷徳堂って知っ
ては？—大阪大学が受け継ぐなにわ町人の学問所—」
にあたっても学生数名に調査、撮影の補助をお願いした。
2025 年春「生誕 100 周年記念 松本奉山—水墨画で世
界を描く—」は、私自身は展示に関わらなかったが、学

生数名が調査撮影、解説執筆などでお世話になった。

もう一つの機会は、毎夏に実施している博物館学（学
内実習）である。学芸員資格取得のための科目の一つで、
実際にモノを扱うことを主内容とする。受講生は美術史
以外、また文学部・人文学研究科以外の学生もあり、例
年 40 名弱程度である。私が担当する美術史の回では、
博物館所蔵の掛軸、桐箱等の扱いをすべての受講生各々
がモノを手にして学ぶ。掛軸はレプリカではなく、実習
用に用意した近代の実作品である。また、博物館の先生
方が担当してくださる展示企画体験として、博物館所蔵
の鉱物、版画、近代の水墨画を対象にグループで企画を
たて、ポスターや作品解説を作成し、実際に作品を展示
する。アイデアをいかにして具体的な展示に仕立ててい
くか、博物館の設備や展示具を具体的に活用するか、毎
年、学生たちは知恵をしばり、素晴らしい展示を実現し
ている。

上記のうち、展覧会については博物館研究支援推進員
の波瀬山祥子さん、博物館実習は船越幹央先生、横田洋
先生、伊藤謙先生（昨年度まで）、波瀬山さんに大変お
世話になっている。このような博物館との関わりは、学
生たちはもとより私にとっても実にありがたく、学びの
多いものである。今後も、兼任教員として、このような
関係をより良いかたちで継続できるよう努めていきたい。



編集後記

大学のなかにあり、研究者や学生たちとの距離が近い
大学博物館は、国や地方自治体の博物館とは異なった取
り組みができます。今号で報告した場面緘黙をもつ子ど
もたちへのワークショップは、その一例です。本学の研
究者が主体となって実施したもので、全国の博物館でも
初めての試みではないでしょうか。今後も、社会にとっ
て価値の高い活動ができる大学博物館をめざしていきた
いと思います。（船越）

大阪大学総合学術博物館ニューズレター

まちなかミュージアム

発行日 2025 年 9 月 30 日

編集発行 大阪大学総合学術博物館

グローバル情報委員会

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

大阪大学総合学術博物館 事務室

Tel : 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>